

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 自然生命科学研究支援センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	自己評価
<p>【光・放射線情報解析部門】 法令に基づく新規教育訓練講習会(津島施設2回、鹿田施設6回) 再教育訓練講習会(3回) 英語による新規教育訓練講習会(1回) 医学部医学科基礎放射線学の講義と実習の実施(鹿田施設)</p> <p>【動物資源部門】 利用者研修会(6回) 教育訓練講習会(6回)(法令に基づくものを含む) 医学部医学科生物学実習等学部教育の実施</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 組換えDNA実験教育訓練(日本語:4回以上・英語:1回以上) 放射線業務従事者新規・再教育訓練講習会(2回・3回)</p> <p>【分析計測・極低温部門】 利用説明会・セミナー(法令に基づくものを含む)(7回以上) 利用訓練・資格試験(4回以上) 機器見学(講義等での)受け入れ(1回以上) 機器利用相談の受け入れ(月回以上)</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 新規教育訓練講習会 12回 再教育訓練講習会 5回 英語による新規教育訓練講習会 2回 医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習 医学部医学科RI使用についての法規制と実験例の講義</p> <p>【動物資源部門】 動物実験施設の利用者研修会:鹿田施設4回(※大規模改修に伴い7月～開催停止)、津島北施設15回、津島南施設15回(講習会形式では計5回(鹿田施設4回+津島北施設1回)) 教育訓練(動物実験委員会) 14回実施 医学部医学科生物学実習を実施(30時間) 農学部における講義及び他大学における講義それぞれ90分1回実施</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 組換えDNA実験教育訓練を計7回実施した。このうち、2回は外国人留学生用の英語の教育訓練を実施した。放射線業務従事者教育訓練を2回、再教育訓練を3回実施した(光・放射線情報解析部門と共同)。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・利用説明会・セミナー: 31回(公開22回、非公開・補講9回) 液体窒素・液体ヘリウム利用者に対する教育訓練講習会 5/14 機器利用説明会 13機種26回、技術講習会 3回、セミナー 1回 ・利用訓練・資格試験: 6回 NMR 2、高分解能質量分析装置 2、HPLC-Chip/QTOF装置 1、 ペプチドシーケンサー 1 ・機器見学(講義等での)受け入れ: 1回 理学部化学科2回生(元素分析、NMR) 7/11 ・機器利用相談の受け入れ: 31.5回/月(4-1月末の10ヶ月で315回)</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	自己評価
<p>【光・放射線情報解析部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築</p> <p>【動物資源部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築</p> <p>【分析計測・極低温部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 学内外の共同研究の構築</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 研究成果論文の公表 3編 学会発表 6回 外部研究資金獲得のための応募 4件 学内外の共同研究の構築 4件(農学部、資源植物科学研究所、京都大学、長崎大学)</p> <p>【動物資源部門】 論文1編、総説1編、学会発表5件 外部研究資金1件(基盤研究C 1件、継続)、研究費応募 4件</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 研究成果論文の公表:5報(英語、査読あり) 学会発表:15件(うち、7件は共同研究者・学生による発表) 外部研究資金獲得のための応募:5件(うち、3件が採択) 学内外の共同研究の構築:5件(UCSF、理化学研究所の2研究所、防衛医科大学、岡山大学IPSR)</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・研究成果論文の公表: 13編/部門 小坂 0、多田3、太田 2、砂月9、重複1 ・学会発表: 9.8回/教員/部門 小坂2、多田4、太田7、砂月26 ・外部研究資金獲得のための応募: 5回・部門 小坂1、多田1、太田2、砂月1 ・学内外の共同研究の構築: 19件/部門 小坂2、多田4、太田11(学内8、学外3)、砂月2(学内1、学外1)</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	自己評価
<p>【光・放射線情報解析部門】 放射能による環境汚染対策について関連諸団体との連携をはかり、協力及び支援する。</p> <p>【動物資源部門】 動物実験の技術講習会の開催又は開催支援を行う(1回以上)。 動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与する(1学協会以上)。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する(1回以上)。 学外のプロテオーム受託サービスを行う(中国地区国立大学間連携を含む)。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 学外依頼分析サービスを実施する(4測定項目以上)。 学外者を機器見学会に受け入れる(1回以上)。 機器利用説明会・講習会などを学外に開放する(4回以上)。 産学官連携の行事へ参加する(1回以上)。</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 福島県及び飯館村との協力のもと、福島原発事故による被災農地の修復に関する調査研究の実施(資源植物科学研究所との共同プロジェクト) 大学コンソーシアム吉備創生カレッジで講座を実施(3回)</p> <p>【動物資源部門】 マウス・ラット上級技術講習会の開催1回(主催として) 第4回 岡山ERフォーラムFIRST(Fundamental Immediate Resuscitative Surgery for Trauma)コース開催支援(主催: 歯薬学総合研究科地域医療学講座・救急医学講座) 職員が、九州実験動物研究会(評議員、学術集委員会委員、若手交流委員会委員)、岡山実験動物研究会(常務理事)、日本実験動物技術者協会(関西支部幹事)、国立大学法人動物実験施設協議会(動物実験適正化委員会副委員長)、ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」説明会岡山会場開催世話人。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 高校生を対象とした組換えDNA実験指導: 1回 学外のプロテオーム受託サービス: 1件</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・学外依頼分析サービスを実施する: 6項目 NMR、CHN元素分析、X線回折測定、結晶構造解析、ペプチド配列測定 質量分析(ESIとLC/MS) ・学外者を機器見学会に受け入れる: 4回 企業 6/13、放送大学面接授業 4装置 7/4、 スーパーサイエンスハイスクール NMR ICP-AES 9/12、 広島スーパーサイエンスミュージアム XRD室 12/14 ・機器利用説明会・講習会などを学外に開放する: 6回 分析化学会講習会、HPLC-Chip/QTOF利用説明会 元素分析 技術講習会(設備NW)、高分解能MSセミナー&技術講習会(設備NW) NMR応用測定講習会(設備NW) 高速液体クロマトグラフ インハウスセミナー ・産学官連携の行事へ参加する: 1回 知恵の見本市</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	

<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <p>【光・放射線情報解析部門】 日常業務を適正に実施する(放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など) ホームページを随時更新し充実をはかる。施設ニュースを発行する。 OMIC事業の推進のための支援業務を遂行する。</p> <p>【動物資源部門】 動物実験に係る技術支援(3件以上)、マウス胚凍結(7件以上)、共通機器の整備及び利用促進 ホームページの充実、随時更新を図るとともに広報誌や利用の手引きを発行する。 鹿田施設の改修を進め、実験動物の最大収容能力を増強する。 平成24年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行する(1報以上)。 センターニュースの発行(3回以上)。 施設利用のWeb予約システム等、ITを用いた業務の効率化を図る(1項目以上)。 動物実験委員会と連携して学内点検を行う(1回以上)。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 組換えDNA実験のコンプライアンスを徹底する(安全管理、実験申請HPの充実)。また、組換えDNA実験安全 管理委員会と連携して、組換えDNA実験に関する施設を査察する(年度末までに津島地区の全部局を実施する)。 ゲノムプロテオーム解析機器の利用を促進する(講習会:1回以上、学内のプロテオーム受託サービス)。 放射性同位体実験の安全管理、作業環境測定の実施。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 広報誌の発行とホームページを充実させる。 学内教職員利用者および学外利用者を拡充する。 学内依頼分析サービスを実施する(4測定項目以上)。 設備サポートセンター業務(全学共同利用機器の設置要望調査など)を実施する。 学内液体窒素および液体ヘリウム供給体制を充実させる。</p> <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>【光・放射線情報解析部門】 放射線安全管理、被曝管理及び作業環境測定と、その全学支援を適正に実施した。 原子力規制委員会による学内施設への立入検査への対応を支援した。 施設の維持管理も適正に実施した。 鹿田施設ニュースを発行した。 OMIC事業について積極的な支援を実施した。</p> <p>【動物資源部門】 【支援業務】 マウス胚凍結業務 112件、血液分析業務 45件、動物検疫 9件、中型動物実験支援20件 【施設の整備及び共同利用機器の整備】 施設持ち込みセーフティーキャビネット1台を共同利用機器化、共同利用機器として吸入麻醉装置5 台新規購入、純水生成装置1台更新、セーフティーキャビネット1台新規購入(共同利用機器化分と 合わせ、2台導入)、動物死体保存庫4台新規購入、プタ・イヌ兼用飼育装置6台新規購入、マウス飼 育装置60台更新及びラット飼育装置3台更新(鹿田施設のマウス収容可能数が1.5倍にアップし、飼 育室13室整備並びに鹿田施設から旧式のオープン式飼育架台を一掃、一部、津島南施設に移設) 【広報・施設利用の利便性の向上】 平成24年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行、センターニュースを3回発行、機器 Web予約システム1機器追加、ネットを利用した実験動物購入フォーム作成。 【点検・検証】(動物実験委員会活動) 国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会の動物実験に関する相互検 証プログラムを受け、鹿田施設と津島南施設の現地視察を受け入れた。 平成24年度版自己点検・評価報告書及び現況報告書を作成した。 中型動物技術支援件数=21件、血算・生化学分析支援研究=49件(学外5件を含む)、マウス胚凍 結実施件数= 鹿田施設の大規模改修に着手、マウス飼育装置59台、ラット飼育装置3台更新、マーマセット飼育装 置の新規導入を行い、実験動物の収容数の増強を図った。 平成25年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報発行 センターニュース発行=1回 鹿田施設及び津島北施設の実験室のweb予約システムを充実化した。 学内の動物実験室全室を点検した。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 部門の日常業務は全て行った。 組換えDNA実験安全管理委員会と連携し、組換えDNA実験に関する施設の査察を実施し(H.26度 は農学部、工学部、理学部、動物資源部門津島北施設、光・放射線情報解析部門鹿田施設を実施 し、津島地区の査察は全て終了した)、安全管理体制の構築を図った。 HPの組換えDNA実験申請書の記入例を充実させ、コンプライアンスの徹底に務めた。 学内利用者へのゲノム・プロテオーム解析の講習会を2回実施した。 学内のプロテオーム受託サービスを11件実施した。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・広報誌の発行とホームページを充実させる。 広報誌発行 3/31(予定)、分野HP更新35回</p> <p>・学内教職員利用者および学外利用者を拡充する。 ・研究室登録数(教員) 131研究室 ・学外利用研究室 14 (うち企業5、大学9)(うち県内 5、県外 9)</p> <p>・学内依頼分析サービスを実施する(4測定項目以上): 6項目 NMR、CHN元素分析、X線回折測定、結晶構造解析、ペプチド配列測定、 HPLC-Chip/QTOF装置</p> <p>・設備サポートセンター業務(全学共同利用機器の設置要望調査など)を実施する。 要望調査実施 平成26年10月15日~11月21日 リユース受入(中古購入)(学外→分野): 5装置 リユース移設(分野→学内): 3物品 分析計測分野講演会(公開) 11/28</p> <p>・学内液体窒素および液体ヘリウム供給体制を充実させる。 液体窒素供給状況 : 6587回、64,270.1kg、115グループ 液体ヘリウム供給状況 : 477回、34,074.9L、15グループ</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>センター業務について、全学からの要求に的確に対応し、社会貢献については多様な取り組みを行った。来年度は教授ポストがさらに1名増加するのでさらに積極的な活動を展開したい。</p>	